

文京区発！自然観察会
不忍池 渡り鳥観察会

2024・1・8（月・祝） 晴れ
10：00～12：00

参加者：45名（こども25名、保護者20名）
跡見学園女子大学ボランティア：3名
NACOT：14名 中村（忠）、小久保、堀内、
佐藤（鋭）、古川、月原、菅沼、佃、今徳、近藤、中
山、鈴木、田邊、（報告 小林光昭）

朝の冷え込みが厳しく雲一つない青空の下、大都会・上野公園の不忍池ほとりに多くの参加者が集い、遠くシベリアなどから渡ってくる、冬の渡り鳥を中心とした野鳥をみんなで楽しく観察しました。冒頭、参加者全員が集まってのオリエンテーションでは、スタッフの紹介、注意事項などを確認した後、渡り鳥の基本的なことを学び、その後各班に分かれて観察会は開始されました。私は「ブルー班」、スタッフ3名、おとな4名に、元気の良い小学生の男子6名で観察を始めました。

まずは、びっしりと冬枯れのはすが茂る池の中に大きな鳥を見つけました。「わあ～！大きい！なんだろう！」「何羽いるかな～！7羽？ いや9羽かな！」、子どもたちが茂みの中にアオサギを見つけました。空を見上げると、これまた大きな鳥が2羽、ゆっくりと円を描いています。トビです。複数のカラスにオオタカが追われています。休んでいたアオサギが、大きな羽を広げて飛び立ちました。「わ～！でっかい。追い駆けよう！」。その横をユリカモメもスーッと飛翔しています。池を觀たり空を觀たり、参加者たちはそれぞれに大興奮です。私自身も渡り鳥観察会は初めての参加、子供たちと一緒に図鑑と睨めっこです。「カモだ。え～？でも顔が白いよ！からだも黒い！」「尾っぽが長い！あっ！小さい目の真ん丸な奴が潜った！どこ行った！」「嘴が白い！こ

っちは嘴が黄色い！」、子どもたちが鋭い観察力で目に入ったものを口々に報告します。「さて何だろう。図鑑を見てみようよ！」、こんな感じで、私の初参加の渡り鳥・野鳥観察会が進められました。実のところ、私は鳥の名前がさっぱりわかりません。お父さんお母さんから、「あそこのカモのような鳥は何ですか？ビンゴにありますか？」と問われて冷や汗ものです。それでも、図鑑を子供たちと見ながら、「これだね！尾っぽが長いし首が白いよ！」「そうだ！オナガガモだ！」「あの2羽はラブラブだね！」、みんなで観察する楽しさを改めて感じる事ができた観察会となりました。

詳しい指導員からは、足の形、目の色、嘴の形など、観察のポイントが説明されると、より深く観察する楽しさが増して、あっという間に時間が過ぎてしまいました。まとめでは、子どもたちから印象に残ったことを報告してもらいました。スタッフからは、野鳥へのエサやりについて考えてもらう為のお話を行いました。子供たちからは「餌をあげている人がいたよ」「自分で食べるものが取れなくなったら生きていけなくなっちゃうよね」と、感想が語られ、自然との接し方について考えるきっかけとなったのではないかと思います。お父さんお母さんからも、「とても楽しかったです」との感想を頂き、大変有意義な一日となりました。

